

しょうがくせい みな
小学生の皆さんへ

なつやす さいご ひび す ことし しゅうかん みじか なつやす
夏休みの最後の日々、どのように過ごしましたか。今年は 3週間という短い夏休みになってしま
ましたが、工夫して上手に時間を使うことができたでしょうか。

せんしゅう かんさい きけん あつ つづ たいさく ねっちゅうしょう
先週、関西では危険な暑さが続きました。コロナ対策のマスクのこともあり、熱中症にならないよう
に注意しなければならない暑さでした。しかし、そんな暑さの中、10日ほど前のある夜、コオロギが
鳴いているのを耳にして、不思議と涼しげな気持ちになりました。確かに日本では、8月23日は
「処暑」とよばれて、暑さが一段落する時期だとされてきました。秋の虫たちは、季節の移り変わり
を知っているようです。

な ごえ き くち しょうがくせい
コオロギの「コロコロ コロコロ」という鳴き声を聴きながら、つい口ずさんでしまうのは、小学生の
ときなら 虫のこえ という歌です。「♪あれ 松虫が鳴いている ちんちろ ちんちろ ちんちろり
ん あれ 鈴虫も鳴き出した りんりん りんりん りいんりん 秋の夜長を 鳴き通す ああ おもしろい
虫のこえ♪」私は最後のところがとても好きです。虫の音ではなく、虫の声。そして、その声はとても
「面白い」のです。日本語の「面白い」には色々な意味がありますが、この場合あてはまるのは、
「心に響くものがある」という面白さではないでしょうか。

えいご むし おと ひょうげん ふつう にほんご むし おと むし
英語では「虫の音 (insect sound)」と表現するのが普通です。日本語で虫の「音」ではなく虫の
「声」と表現するのは、日本語の性質によるものであるという研究があります。日本語でいつもお
たが かんが きも つた にほんじん にほんご ちか おと しぜん おと き
互いの考えや気持ちを伝えあっている日本人が、日本語と近い音でできている自然の音を聴くと、
その音にも 考えや気持ちを見つめることができるのだということを述べられた角田忠信先生の本
を読んだことがあります。やはり私たちには、「虫の音」ではなく「虫の声」がぴったりですね。ただ
の音のように思えません。風のそよぎ、小川のせせらぎ、そういった自然がつくり出す音はすべて
こえ かに かた こころ ひび かん
声のように語りかけ、心に響いてくるように感じます。

ねっちゅうしょう たいへん ひび みみ す きび
コロナだ、熱中症だ、と大変な日々ですが、ちょっと耳を澄ませ、厳
しい残暑の中でも、心に響く「声」に気づいてみたいものです。

